

平成29年度 第1回徳島県南部地域医療構想調整会議 議事録

平成29年10月19日（木）午後7時から
阿南保健所 2階 大会議室

1. 議事

資料に従い事務局から説明（省略）

2. 質疑等概要

■議題3「平成28年度病床機能報告の結果」について

<A委員>

- ・ 地域医療構想における、地域医療支援病院の位置付け、取扱いについて伺いたい。

<事務局>

- ・ 「病床機能の分化・連携」や「医療提供体制の確保」が今後の課題となるが、地域医療支援病院については、紹介率・逆紹介率など様々な基準を満たしていただく制度であるので、特に地域医療構想で定めた制約等はない。
調整会議においては、各病院が担っている医療機能を今後どうしていくかについて議論をするので、切れ目の無い医療提供体制を検討する上で地域医療支援病院の担っている役割を踏まえて議論することになるのではと考えている。
- ・ また、地域医療支援病院や特定機能病院については、「公的医療機関等2025プラン」等を策定していただく中で、今後の方向性を明らかにしていただいた上で、調整会議で情報共有をした上で、議論を進めていただきたいと考えている。

<B委員>

- ・ 資料2の8ページに病床機能報告においては、病棟で最も大きな割合を占める機能を報告するとあるが、具体的に50%や60%の割合があるのか。

<事務局>

- ・ 資料2の8ページは病床機能報告にあたっての国の考え方を示している。国においては病床機能報告は地域医療構想を進める上で重要であると考えており、精緻化を図ると聞いている。ただ、現時点においては、具体的な数値はない状況である。

■議題4 公的医療機関等2025プランについて

<事務局>

- ・ 南部圏域として、徳島赤十字病院、徳島赤十字ひのみね総合療育センター、阿南共栄病院、阿南中央病院、県立三好病院、三野病院、半田病院から発表していただく計画となっております。

<議長>

- ・ よろしいでしょうか。

(異議はなし。)

■議題5 地域医療構想調整会議における協議の取扱いについて

<A委員>

- ・ 病床機能分化・連携推進体制整備事業において提出期限が11月となっており、第2回調整会議で審議することとなっているが、調整会議で何を決めると想定しているのか。

<事務局>

- ・ 資料4の10シート目に示している、地域医療介護総合確保基金の事業区分1「病床の機能分化・連携」における「病床機能分化・連携推進体制整備事業」は病床機能の転換や適正化を図る事業であり、この事業の対象となる南部圏域での病床転換や適正化について、適切かどうかを調整会議に諮るものである。

<A委員>

- ・ 経営そのものの話になるので纏まりにくいと思うが、2025年に向けて最終的には何年度までに方針を決定するのか。アバウトなタイムスケジュールを示してもらえれば。

<事務局>

- ・ 推進体制整備事業については、あくまで基金の一事業の話であり、A委員のお話は地域医療構想全体のスケジュールの話であると思う。調整会議においては、国からの情報や病床機能報告からの情報などについて情報共有を図りながら、皆さんから御意見をいただいた上で方向性を考えていきたい。

このため、第2回の調整会議では「公的医療機関等2025プラン」に基づいて公的医療機関から説明していただき、その後、他の医療機関がそれぞれが担う医療機能の方向性を議論していただけたらと考えている。

その後も、様々な情報が示されると思うので、その情報を共有して議論を深めていければと考えている。

<C委員>

- ・ 次回の協議会で、公的病院から報告があるということだが、どの病院が報告するのか。
- ・ 「病床機能分化・連携推進体制整備事業」における基金事業の提案依頼について今年度だけなのか。
- ・ 地域医療支援センターの役割や機能はどのようなものか。

<事務局>

- ・ 資料3の11シートに示しているとおり、徳島赤十字病院、徳島赤十字ひのみね総合療育センター、阿南共栄病院、阿南中央病院、県立三好病院、三野病院、半田病院であり、それぞれの病院から御報告いただきたいと考えている。
- ・ 基金事業の提案依頼については、翌年度の基金事業の提案依頼を毎年度この時期に行っているため、来年度以降も継続していきたいと考えている。
- ・ 地域医療支援センターは、徳島大学医学部医学科に奨学金を貸与している「地域枠」の学生を始めとする学生についてキャリアプランを考えていただくということで、現在、徳島大学に委託して取組を進めているところ。

<議長>

- ・ 運営要領や協議の取扱いについて、異議、御意見はございませんか。

(異議はなし。)

■議題6 その他

<D委員>

- ・ 資料2の4シートですが、推計必要病床数と病床機能報告の数字を比較しているが、二つの数字は非常に乖離がある。先ほどA委員から話があったように、この乖離をどのように、また、どの期間をゴールとして進めていくのか。
推計必要病床数は単なる目標なのか、それとも強制力を持つ数字なのか、それによってスケジュール等が全然変わってくると思う。そのへんはどうか。

<事務局>

- ・ 昨年10月に策定した地域医療構想の中で、2025年の推計必要病床数として示したところ。この地域医療構想を策定する中で、調整会議の中でも様々な御意見をいただいた。その中で、「推計必要病床数ありきで機械的に進めていくのか。それはおかしいのではないか。」との意見もいただいた。また、国の方からも「自主的な取組として進めていくものだ」と言われており、県もその方向で考えている。
資料1の15シート目に国の考えている「調整会議のスケジュール」を示している。この中で、10月に開催する調整会議については、「次年度における基金の活用等を視野に入れた議論」として、「機能ごとに具体的な医療機関名を挙げたうえで、機能分化・連携若しくは転換についての具体的な決定」と示されている。
県としては、まず、情報共有を図った上で皆さんの御意見を伺い、こういった形が徳島県南部医療圏として良いのかということを考えていきたい。その結果として、2025年の必要病床数に近づいていければ良いのかと考えており、病床の1単位のずれも許さないというものではないと思っている。実態を踏まえた皆様の御意見をいただきながら、この方向性に向けて取組を進めていけたらと考えている。

<D委員>

- ・ 1床のずれは当然出てくると思うが、2割3割のずれであればどうか。

<事務局>

- ・ 病床機能報告の区分と、地域医療構想における必要病床数における区分が必ずしも一致しないというのは、感じられているところ。また、病床単位と病棟単位という点でも異なっており、病床機能報告では病棟単位で「主な」区分で報告していただいております。徳島大学病院や徳島赤十字病院からは全て高度急性期として報告していただいている。このため、なかなか一致はしないが、推計必要病床数が一つの数値であることは間違いないので、ワーキンググループで協議をしていきたい。
- ・ 昨年度お示しした病床機能実態調査については、DPCで算出できる病院に限られる事やそれぞれが独自の方式で算出していること、なかなか難しいという結果となり、申し訳なく思っている。また、委員の方々から見える化の方法を御提案いただければありがたいと思う。
- ・ 今後、「病床機能報告」の他に、「国から示されたデータブック」や「レセプトの分析」「各医療機関へのアンケート調査」などのデータを調整会議等で共有できたらと考えている。なお、医療機関名も示した上でのデータで、ワーキンググループでは協議させていただけたらと考えているのでよろしく願います。